



今回は津図書館です。津市庁舎に隣接する津リージョンプラザ内にあり、1階には図書、2階にはLD・CD・ビデオを視聴できる映像音声ラウンジや新聞のマイクロフィルムを見ることができる特殊資料閲覧室などがあります。

『女性の「平均値」がわかる本 — みんなどうなの?』

雑学データバンク・編 〈青春出版社 2005年〉



1つのテーマを1ページに割り当てて当世平均的女性の事情を解説。例えば年収や貯金、恋愛や趣味などについて90項目にわたり、女性のホンネと現実を交えながら平均値を紹介しています。他の女性は一体どうなのか、また今の自分が平均よりも上か下か、気になる方は要チェックです。

『桂三枝のああ夫婦』

— 「新婚さんいらっしゃい!」でわかった幸せの法則! —

桂三枝・著 〈大和書房 2007年〉



誰もが知っている国民的長寿番組「新婚さん いらっしゃい」の司会者である著者が紹介する、夫婦の相性から食事の話、お金の話まで。37年間以上に及ぶ番組の司会経験で気づいた「夫婦って不思議やなあ、夫婦って面白いなあ、人生っていいなあ」という思いをユーモアたっぷりに語っています。

『夫というもの』

渡辺淳一・著 〈集英社 2004年〉



結婚という枠組みの中で、変容してゆく男たちの本音にせまり、その実態を分析しています。また、老いをどう生きるか、高齢社会が急速にすすむ中、夫婦のあり方を、かつて医師であった著者が肉体的・精神的な面から説いたエッセイです。

『フランス父親事情』

浅野素女(あさのもとめ)・著 〈築地書簡 2007年〉



今や子どもの半分が婚姻関係にない親から生まれているという恋愛大国フランス。父親となったフランスの男たちの生活と意見を、彼らへのインタビューを通してパリ在住20年のジャーナリストが浮き彫りにしています。

- 市内在住・在勤・在学の方は、どなたでも借りられます。 ●紹介の本は、市内の他の図書館でも、所蔵していることがあります。
- お近くの図書館に本がない時でも、取り寄せてもらって借りる方法があります。
- 詳しくは、津市図書館ホームページ (<http://www.tosyo.city.tsu.mie.jp/>) または、図書館の受付窓口にお尋ねください。

編集後記

☆自分が動く事、資料や情報を集めて一生懸命勉強し、編集会議の大切な時間を目一杯使う。皆の積み重ねの姿勢に感動し、編集会議が楽しみです。(井上摩紀)

☆今回新編集員さんを迎え、いろいろな意見を出し合いながら編集会議を行い、又、楽しくインタビューさせていただきながら原稿作りができました。(小林小代子)

☆基本計画に情報紙が位置づけられました。今以上に、情報提供・啓発に努め、宣言都市の名に恥じない市民意識の向上をめざします。(佐藤ゆかり)

☆昨年、兵庫県から引っ越してきました。新米市民として、深い歴史と文化を持つ津市を男女共同参画の視点から新鮮に捉えたいです。(竹田典子)

☆今回から参加させていただき、初めての事ばかりで、他の編集員さんに教わりながら、とても楽しく原稿作りができました。(谷口みゆき)

☆「まちを元気にする男女たち」シリーズも3回目です。新たな仲間を迎え、皆さまからの声がすてきな紙面づくりの主役だと確信いたします。(森田 寛)

# つばさ

情報紙

～男女共同参画社会の実現をめざして～



▲ 山根 一枝 さん



▲ 女子レスリング 吉田 沙保里 選手(津市一志町出身)  
写真提供：日本レスリング協会



▲ シロモチくんととらまるくんも男女共同参画



▲ 夢のバリアフリーミュージカル人情集団 An-Pon-Tan

- 主な内容
- ◇津市男女共同参画基本計画ができました
  - ◇まちを元気にする男女(なかま)たち  
～第3回：山根 一枝 さん～
  - ◇「男女共同参画に関する市民意識調査《報告書》」に見る津市の現状
  - ◇於奈津の方と藤堂高虎公
  - ◇ぶらりライブラリー  
～津図書館～



# 男女が支え合い、いきいきと暮らせるまちをめざして 「津市男女共同参画基本計画」 ができました。

## 計画の基本的な考え方

津市では、男女が互いに支え合い、さまざまな活動に参画し、いきいきと暮らせるまちをめざして、男女共同参画社会の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進していくため「津市男女共同参画推進条例」に基づき基本計画を策定しました。

### 計画の基本理念

- 1 男女が、性別により差別されることなく、個人として個性と能力を十分に発揮することができる機会、また多様な生き方の選択をすることができる機会が確保されるとともに、個人としての人権が尊重されること。
- 2 男女が社会の対等な構成員として、職場、学校、地域、家庭その他の社会のあらゆる分野における活動に参画し、かつ、責任を分かち合うこと。
- 3 社会における制度又は慣行が男女の社会における活動の自由な選択に対して及ぼす影響をできる限り中立なものとするように配慮されること。
- 4 男女が社会の対等な構成員として、本市における政策又は事業者における方針の立案及び決定の場に共同して参画できる機会が十分確保されること。

## 計画の進め方

男女の人権が尊重され、職場、学校、地域、家庭などあらゆる場で、一人ひとりが社会の重要な構成員として、それぞれの個性と能力を認め合い、その力を十分発揮できるよう、市民・事業者の皆さんと一体となって、目標を達成するため計画を効果的、かつ着実に進めていきます。

### 男女共同参画推進体制の充実

#### ～津市男女共同参画審議会～

公募による市民や学識経験者、国や県の関係機関の職員などで構成されています。計画の策定や変更、施策の進捗状況、その他男女共同参画の推進に関することについて審議します。

#### ～津市男女共同参画推進会議～

施策を推進するため、市の各部局が連携し、より充実した男女共同参画の推進を図ります。

### 市民の皆さんや関係団体との協働による推進

#### ～啓発活動の充実～

市民の皆さんや市内各地域で活動する男女共同参画推進団体との協働により、啓発活動を充実し、市内各地域での男女共同参画の着実な推進をめざします。

#### ～市民の皆さんの意見の反映～

ホームページや情報紙等で施策や施策の進捗状況を毎年度公表し、市民の皆さんの声を反映させながら、効果的に推進します。

## 計画の基本目標と施策の方向

次の7つの基本目標を掲げて施策を策定しています。



津市男女共同参画基本計画は、津市ホームページ【<http://www.info.city.tsu.mie.jp>】の市役所のご案内 ⇒ 各部・課ガイド ⇒ 市民部人権課 男女共同参画室 から、ご覧いただけます。

# まちを元気にする男女(なかま)たち

第3回 山根 一枝さん

今回は久居在住の山根 一枝さん。バリアフリー、国際交流などさまざまな活動をされています。開口一番「私の元気のおもとは障がいのある息子がいること」「ピンチはチャンス」と大らかな笑顔で語ってくださいました。しかしお話をうかがっていくと、そこに至るまでに多くの葛藤をくぐり抜けていらっしゃるのことがわかりました。男女共同参画についてはそれほど活動していないと謙遜されていましたが、「共生」というキーワードで、しっかりつながっていることがうかがえました。



## 山根一枝さんプロフィール

- 1955年 山梨県に生まれる。
- 1974年 1年間イギリスに留学。
- 1980年 お茶の水女子大学大学院卒業。同時期に結婚。熊本へ。
- 1981年 長男を出産。
- 1984年 二男を出産。
- 1985年 夫の転勤で三重県へ。
- 1990年 国際交流活動を始める。
- 1991年 インターナショナルルイ企画を設立。
- 1992年 津の生活マップを作る
- 1993年 自閉症を学ぶため家族で1年間アメリカへ。
- 1997年 日本自閉症協会三重県支部副会長に就任。
- 1998年 久居国際交流協会設立。
- 2000年 バリアフリーミュージカルAn-Pon-Tanの活動を始める。
- 2001年 三重国際交流団体連絡会会長に就任。
- 2003年 スペシャルオリンピックス日本・三重、発起人となる。
- 2004年 久居市民生・児童委員に。(合併後、津市でも引き続き活躍)
- 2005年 三重県教育委員に就任。(翌年10月から1年間教育委員長)
- 2005年 (有)アイデアルストーリーズ設立・取締役。
- 2008年 答礼人形「ミス三重」の里帰りを実現させる会発起人・幹事。

## 国際交流のきっかけは

大学3年の時、イギリスへ留学しました。都市化で遊ばない・遊ばない子の増加が問題となる中、冒険遊び場づくりの住民運動を調査研究するためです。取材を通して、大人たちが、子どもたちの笑顔を何よりも大切に、保障しようとしていることに感銘を受けました。

留学を終えて帰国する前日、同じアジアからの留学生なのに、1年間私と全く口を利くことのなかった香港の女子学生から、ショッキングな話を打ち明けられました。

「私の曾おじいさんは、日本兵に惨殺された。だから私は、あなたが日本人と聞いただけで近寄れなかった話もしたくなかった。けれどこの1年一緒に生活する中で、あなたがそんな日本人ではない、友達と思えるようになった。」

私は彼女の話に何も言えず、涙するだけでした。けれども帰りの飛行機の中、誓ったのです。「日本に帰ったら、今度は私が留学生を家に受け入れてお世話をしたい」と。

帰国後、大学院でYWCAの留学生の母親運動を調査する中で、知識よりもパック旅行よりも、1人の留学生を月1回の夕食に招く方が、ずっと偏見なしの国際交流になるという確信を得ました。これが、三重に来てからの「草の根の対等な関係の直接交流」につながっていくのです。

## 子どもは、母親の所有物ではない

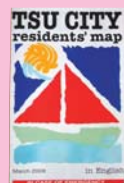
結婚後は熊本で、留学生の母親運動を展開しました。

5年後、夫の転勤で三重県に来ました。その頃二男に発達障がいが見つかったのです。自分はずっと息子の障がいに付き合っていかなければならないのか、夢も希望も失い、絶望感に苛まれました。転居後、子どもや夫を通しての人間関係がほとんどとなり、自分が自分でないという思いを抱いていたことも、私を苦しめていたと思います。

その時、周りの人たちが「あなたにはあなたの人生がある」と言ってくれました。特に「母親が子どもを自分の所有物として考えるのはおかしい。あなた自身ももっと輝く道が

## インターナショナルルイ企画

草の根の国際交流グループ。8か国10人で始める。外国人をお客様扱いせず「企画の段階から対等に」がモットー。世界の家庭料理を一緒に作って食べる会を約40回。それをもとに3か国語でレシピ本を作った。



『津の生活マップ』を英語・ポルトガル語・中国語で作った。救急・ゴミの日・ライフライン、それぞれに異なる食材店や大使館の情報など。ユニバーサルデザインの地図マークも、ここから考え出された。(今年15年ぶりに改訂版発行。)

## スペシャルオリンピックス(SO/エスオー)

知的・発達障がいのある人たちに、様々なスポーツトレーニングと成果の発表の場である競技会を、年間を通じ提供している国際的なスポーツ組織。日本では1980年から活動が始まり、三重県でも2004年SO日本三重が誕生。2005年長野で開催された第8回SO冬季世界大会には、スノーシューイング種目に出場した山根さんの二男政人さんが、見事2つの銀メダルを獲得した。



【SO日本・三重】  
<http://sonm.blogzine.jp/>



あるはず。」という言葉が心に響きました。二男のこぼの教室の先生の「お子さんの指導はプロの私達に任せて、自分の人生を取り戻して。」という言葉も私を後押ししました。

こうして、母や妻としてではなく自分自身・一市民として私がやっていけること―「草の根の国際交流」の活動体として、津地域にインターナショナルルイ企画を立ち上げることになります。また地元でも久居国際交流協会として日本語教室を始めました。さらに県全域でも三重国際交流団体連絡会に加わり、県下各組織の連携・協力を始めました。

## 障がいと向き合って

活動が軌道に乗りながらも、一方でやはり、二男の障がいは大きな心配でした。どうしたら生き生きと活動させられるのか、そのためには日本の教育環境だけで大丈夫なのか。不安と絶望の中、アメリカの自閉症教育に救いを求め、家族で留学しました。アメリカには自閉症の人が元気に働くためのプログラムが開発されていて、そのための環境も整っていたのです。現地の高校で働きながら、1年間親子で勉強しました。

帰国後、二男は水泳に活動の場を

見だし、愛知のプールで練習に励みました。当時三重には受け入れ先がなかったからです。いよいよ愛知代表として大会へという頃、障がい児理解で地域を変えようと運動している四日市のお母さんたちと出会いました。その出会いがスペシャルオリンピックス(SO)日本三重を誕生させました。SOは単に知的障がい者のスポーツではなく、健常の若者がパートナーとなって競技に参加するプログラムも含まれます。広く人と人とを結ぶ社会啓発運動なのです。

国際的なSOに対し、三重独自の活動が、夢のバリアフリーミュージカル人情集団An-Pon-Tanです。中に入ると、皆いろいろな個性の持ち主。障がいの有無を語ることがいかにナンセンスかわかります。けれども舞台ですからメンバーの健康には特に気を使います。勝負でなく調和の大切なことがこの集団の魅力です。

また最近力を入れているのが、自閉症協会の「ペアレントメンター」の活動です。先輩のお母さんが後輩のお母さんにアドバイスします。プロにはない、仲間として信頼・相談できる利点を生かしています。



## 夢のバリアフリーミュージカル人情集団An-Pon-Tan(あんぽんたん)

鈴鹿を中心に三重県から発信する、障がい者と健常者が創るミュージカル集団。団体名「An-Pon-Tan(あんぽんたん)」とは、既成概念をもたない真っ白な頭で、自由な発想で行動していくことを意味している。

2001年から県内・県外で2年おきに3回公演。いずれも反響を呼ぶ。台本・歌・ダンスともすべてオリジナル。現在団員120名。来夏夏の公演に向けて、今から取り組んでいる。

【<http://www.5e.biglobe.ne.jp/~anpontan/>】

## (有)アイデアルストーリーズ

障がい者が主人公の有限会社。知的障がい・発達障がいの人たちが、個々の能力を充分発揮し、就労先や地域の中でより良い社会生活を送れるよう、就労支援事業・育成事業などを行っている。

【<http://www.idestory.com>】

## 働くことを考える

男女雇用機会均等法ができた時、津の79事業所が一斉に、男性外国人から女性外国人に雇い替えるというできごとがありました。深夜さらに安い賃金で使えることが理由です。外国人や周辺労働の女性の働かせられ方を見ていると、よかれと作られたこの国の法律が、実際にどう適用されているのかがよくわかります。

また三重県は、身体障がい者の雇用率は全国トップクラスなのに、知的・精神障がい者の雇用率は最低ランクです。そこで二男の高校卒業を機に、(有)アイデアルストーリーズを立ち上げました。今は公共施設の清掃の仕事をおろしてもらったり、障がい児の塾をしたりしています。シルバー人材センターの向こうを張ってゴールド人材センターです。子どもたちは「金の卵」ですから。

私の将来の夢は、夫の退職後、ともに活動した仲間たちを訪ねて世界各地を巡ること、そして夢のバリアフリーホームをつくることです。お年寄りや障がい者が、ただお世話されるだけでなく、自分も誰かの役に立ち、働きながら過ごせる―そんな夢の家をつくりたいです。

〈本文は、6月26日山根さんご自宅でのインタビュー内容をもとに、再構成したものです。〉

# あなたはどう思いますか？

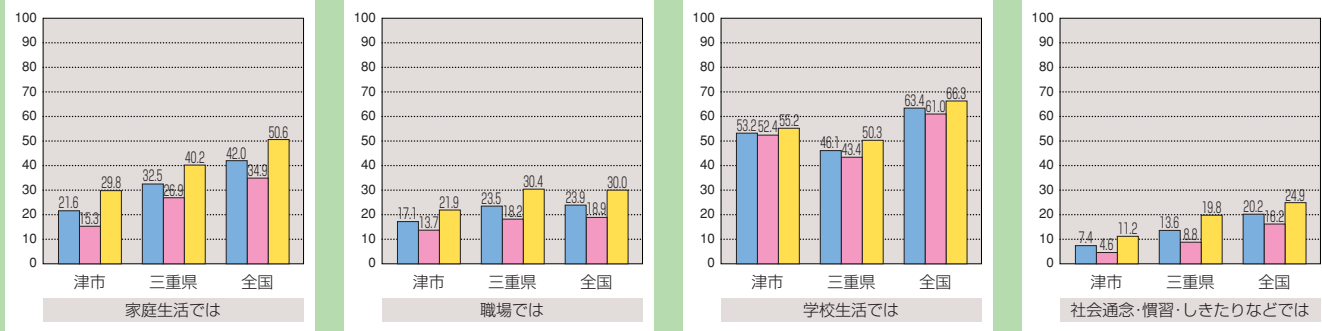
—「男女共同参画に関する市民意識調査《報告書》」に見る津市の現状—



津市は2007年7月、市全域の3000人を対象に男女共同参画アンケートを実施しました。その結果、津市がかかえるさまざまな問題点が見えてきました。今号では、三重県や全国のデータと比較して、その特徴を浮かび上がらせたいと思います。

## あなたは次の分野で、男女は平等になっていると思いますか。

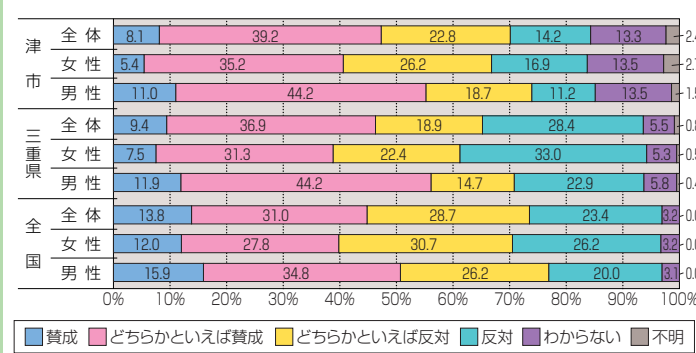
■全体 ■女性 ■男性  
(単位：%)



どの分野も男女平等感は低く、一番高い《学校生活》でも50%どまりです。《学校生活》で唯一、県より高くなっているものの、あとはすべて県・全国より「男女は平等になっていない」と感じている人が多いことを示しています。特に《社会通念・慣習・しきたり》では全体でも10%に満たず、今後の対策が強く望まれる分野と考えられます。またどの分野も女性の方が不平等感を多くかかえていて、県・全国と比べ、差が顕著です。男性が平等と捉えているほどに女性は平等と感じていないことを表しています。

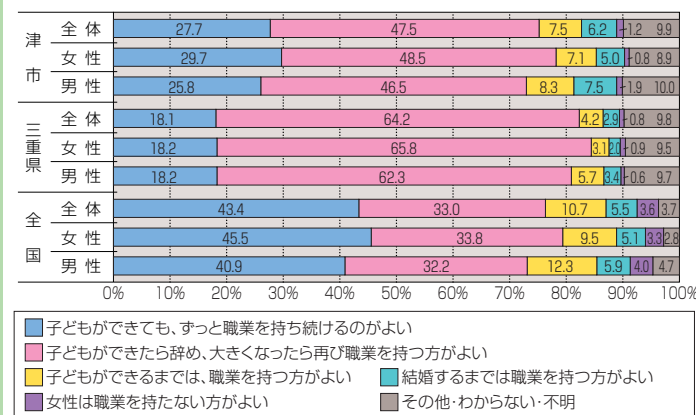
## 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはどう思いますか。

全国調査では、「男は仕事、女は家庭」に「反対」(「反対」+「どちらかといえば反対」)の割合が52.1%と半数を超えました。県調査も過半数とはいかないまでも反対が賛成を上回っています。しかし津市では、反対が37.0%と、まだまだ少数派。未だに性別役割分担意識が根強く残っている地域と言えるでしょう。



## 女性が職業を持つことについて、あなたはどのようにお考えですか。

津市も含め三重県は、「就職継続型」より「中断再就職型」を望む人が男女ともに多く、全国の意識とは対照的です。この原因は何か、また再就職女性が採用・雇用形態・労働条件・賃金などで不利な扱いを受けていないか等、調査・改善していく必要があるのではないのでしょうか。



データは、津市「男女共同参画に関する市民意識調査」2007.9. 三重県「男女共同参画に関する県民意識と生活基礎調査」2006.12. 内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」2007.8. に基づきます。また、津市「男女共同参画に関する市民意識調査」の詳細を知りたい方は、津市男女共同参画室ホームページをご覧ください。



# 第1回 戦国の世 男と女!!



藤堂高虎公が、津市に入府して400年記念ということで、2回に分けてお送りします。今回は、徳川家康の側室であり、高虎公と親交のあった“於奈津の方”について、椋本千江さんにお話をお伺いしましたのでご紹介させていただきます。

## おなつ 【於奈津の方と藤堂高虎公】

豪商人等で、家康が懐刀として手放せなかった家臣の事

そば お側六人衆の一人於奈津の方とは？

なぜ？ 於奈津の方はこれほど大事にされたの？

高虎公と於奈津の方とはどんな関係？

芸濃町河内生まれの大門育ち!“うの”と名づけられました。徳川家康の15人中13番目の側室で、徳川家の墓地に葬られているのは於奈津の方だけです。

「本能寺の変」の時に、伊賀越えでうのの母が家康を助け、その後も、うのが身代わりとなって家康を助けたことから、側室となり“於奈津の方”と呼ばれ、戦場へもお供するようになりました。そこでもまた身代わりとなり家康の命を助けたのでした。

家康から政治についても任されるようになった於奈津の方は、高虎公と協力して津城の改築や津を城下町として発展させました。

於奈津の方は、西来寺を建て直したり、高虎公と協力して津の観音さんの再建に力を入れて、釣り鐘を寄付しました。その釣鐘には、2人の交流が書かれています。そして、家康・秀忠・家光の三代を2人が支えてきました。

のちに“清雲院”と言われた彼女は、賢く度胸のある女性であり、生まれ育った伊勢の国、津の町、人々をこよなく愛した人であったのだと椋本さんは話してくださいました。

そして、この戦国の時代、ただ城で待つだけの側室ではなく、女丈夫振りを発揮した特異な存在であったことを今回ご紹介させていただきました。



今回は、於奈津の方とは正反対な人生を過ごした、藤堂高虎公の2人の夫人についてご紹介したいと思います。

むくもと ちえ 椋本 千江 さんについて  
郷土歴史家。全国歴史研究会会員  
ときめき高虎会会員  
『榊原温泉のあれこれ』『藤堂藩のお殿様』  
『地理風水の祖 定恵の旅』  
『ナポレオンの愛した妃 ジョセフィーヌ』などの著書があります。  
趣味はドライブ、歴史散策、和太鼓(榊原湯の瀬太鼓の一員)

